

「全力平中」

夢を語り、夢を追う生徒
笑顔 続ける 支え合う

【学校だより】

平戸市立平戸中学校
令和7年8月9日
文責 原田 誠

平戸中学校 平和祈念集会

本日、平戸中学校において「平和祈念集会」を実施しました。主担当の西村先生を中心に、安村先生、喜多先生、本村先生、そして生徒たちで「平和集会実行委員会」を立ち上げ、今日の日に向けて準備を進めてきました。実行委員会の構成は、委員長田中琥太郎さん、副委員長吉田小夏さん、銀吉屋菜歩さん、委員松永新絆さん、松本陽太さん、杉山心優さん、高本葵梨さん、森佳奈美さん、井元大翔さん、氏田翔麻さん、川脇菜梨愛さん、川口幸翔さん、浦川美優さん、瀧下奈乃佳さんです。今年度の集会では、学年ごとに以下のようなテーマを設定し、それぞれの代表生徒が学習の成果を発表しました。

1年生：「原爆・沖縄戦・水俣病」 2年生：「沖縄戦」 3年生：「世界の紛争」

発表の後には、実行委員による「読み聞かせ」、そして「平戸中学校平和宣言」が読み上げられました。私からは、生徒の皆さんに次のようなメッセージを伝えました。

～一部抜粋～

今、私たちが「穏やかな日常」を送ることができるのは、戦争によって命を奪われた方々の悲しみと、それを二度と繰り返さぬよう、平和を願い続けた人々の「たゆまぬ努力」があったからです。7月のはじめ、3年生と共に修学旅行で大刀洗平和記念館を訪れました。そこで私は、「戦争のない今の幸せ」や「平和のありがたさ・尊さ」を改めて実感しました。今日は、「戦争の悲惨さ」や「命の重さ」について、皆さんと一緒に考えるために、特攻隊にまつわる一つの話を紹介したいと思います。

(中略) その多くが、皆さんと同じ10代、あるいは少し年上の若者でした。「夢も希望も、未来も」、本来なら手にするはずだった人たちです。皆さんはどうでしょうか。これから進路を考え、将来を思い描き、やりたいことを見つけていく「大切な時期」です。その未来が、もし戦争によって奪われてしまったら？そんなこと、想像もしたくないはずです。だからこそ、私たちは今、「学び、語り継いで」いかなければなりません。戦争がいかに残酷で、人の命を軽んじるものであるか。そして、平和がどれほど尊く、守られるべきものであるかを。(後略)

今日のこの平和祈念集会をとおして、「平和」という言葉の意味を、今一度、心に深く刻んでほしいと思います。そして、過去に目を向けることで、今ある日常のありがたさに気づき、これからの未来をどう生きていくかを考えるきっかけにしてほしいと思います。

令和7年度 平戸市立平戸中学校 平和宣言（前文）

1945年8月9日、午前11時2分、長崎に原子爆弾が投下されました。当時、16歳だった谷口穂穂（すみてる）さんは、自転車郵便配達途中でした。強烈な熱線で、背中一面が焼けてしまいました。2年近くも、うつぶせのまま動けなかった谷口さんは、痛さのあまり、「殺してくれ、殺してくれ」と叫んでいたそうです。

2010年5月7日、ニューヨークの国連本部で、赤く焼けた自分の背中の写真を掲げながら、谷口さんは、「核兵器がなくなるのを見届けなければ、安心して死んでいけません」と訴えました。そして、演説の最後を、「ノーモア・ヒロシマ ノーモア・ナガサキ ノーモア・ヒバクシャ」と締めくくりました。

昨年私たちは、「戦争は一番の人権侵害です」と訴えました。私たちはあらゆる人権侵害を許してはいけなくと誓いました。しかし残念ながら、2022年2月24日から始まったロシアとウクライナの戦闘は今もなお終結せず、「天井のない監獄」と呼ばれる、パレスチナ自治区のガザでは、子どもたちが人間らしい生活ができずにいます。一番弱い者が、一番大きな犠牲を強いられます。それが戦争です。

「過去の苦しみなど、忘れ去られつつあるように見えます。私はその忘却を恐れます。」8年前に亡くなった谷口穂穂さんの言葉です。私たちは、過去の苦しみを忘却しないために、また、現在の苦しみを理解するために、学び続けなければなりません。

1年生は、「原爆、沖縄戦、水俣病」から各自1つのテーマを選びました。原爆とは、どういうものだったのか。なぜ落とされたのか。原爆で人や街はどうなったのか、などについて調べました。また、「鉄の暴風」と呼ばれた、アメリカ軍の攻撃を受けた沖縄戦。当時、16歳だった人の言葉が印象的でした。「人の命が鳥の羽よりも軽くあつかわれた。」水俣病が公式に確認された1956年生まれの坂本しのぶさんは、胎児性患者です。水俣病は過去の問題ではなく、現在も続いている問題です。人の命より経済発展が大事というのでしょうか。

2年生は、「沖縄戦」をテーマに学習しました。私たちと同年代の人たちが、ひめゆり学徒隊として軍に従事させられたり、集団自決で命を失ったりしたことに衝撃を受けました。今も沖縄には、1800トン以上の不発弾が地中に埋まっているといわれます。沖縄戦の問題もまだ終わってはいません。今、幸せなことは普通のことではないと感じました。命を大切に生きていきます。

3年生は、「世界の紛争」をテーマに、ウクライナ危機や難民問題などを調べました。昨年までの学習は、日本の戦争や被害についてが中心でしたが、世界に視野を広げ、世界各地に苦しんでいる人があると知り、同じ人間の立場から物事を考える機会となりました。これから学びを深め、国際理解に力を入れたいと思いました。

私たち中学生が、平和な世界をつくらしていくために、まず、身近な学校生活について振り返ってみましょう。周りの人が嫌がるような言動をしていませんか。誰かを無視していませんか。SNSを通じて暴力的な発信をしていませんか。次に、想像してみましょう。相手の気持ち。悪気がなかった、は理由になりません。そして、周りの人たちに関心を持ちましょう。よく考えて発言し、行動しましょう。平戸中学校を、安心できる平和な学校にしていきたいです。

平和集会実行委員会は、次の平和宣言を提案します。

平戸中学校 平和宣言

- 一 お互いの個性を認め合い、支え合って生活し、誰もが安心して過ごせるような、平戸中学校をつくっていきます。
- 一 広い視野を持ち、世界のできごとに目を向け、国際平和を希求しながら、これからも学習していきます。
- 一 被爆県長崎の中学生として、過去の苦しみを忘れず、核兵器廃絶・戦争反対を発信していきます。



2025年 8月9日

平戸市立平戸中学校 生徒一同

